

# 米国農務省穀物等需給報告(2018年2月8日発表のポイント)

平成30年2月9日  
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、2月8日(現地時間)、2017/18年度の10回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

－2017/18年度の穀物の生産量は消費量を下回り、大豆の生産量は消費量を上回る見込み－

## 1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量: 25億6,451万トン(対前年度比 1.5%減)
- ② 消費量: 25億8,011万トン(対前年度比 0.1%増)
- ③ 期末在庫量: 6億3,693万トン(対前年度比 2.4%減)  
期末在庫率: 24.7%(対前年度差 0.6ポイント減)

### 【主な品目別の動向】

**小麦** : 生産量は、米国で冬小麦の収穫面積が記録的な低水準になること等から減少、豪州でも東部の乾燥により減少するものの、ロシアで冬小麦・春小麦ともに作柄が極めて良好であることから史上最高、インド、EU等でも増加が見込まれることから、世界全体では前年度を上回る見込み。消費量は、ロシア、インド等で増加が見込まれることから前年度を上回る見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

- ① 生産量: 7億5,825万トン(対前年度比 1.0%増)・・・ロシア、インド、EU等で増加、米国、豪州、ブラジル等で減少
- ② 消費量: 7億4,479万トン(対前年度比 0.7%増)・・・ロシア、インド等で増加
- ③ 期末在庫量: 2億6,610万トン(対前年度比 5.3%増)・・・中国、ロシア、EU等で増加、米国等で減少  
期末在庫率: 35.7%(対前年度差 1.6ポイント増)

**とうもろこし** : 生産量は、米国、南アフリカ、ウクライナ、中国、ブラジル、アルゼンチン等で減少が見込まれることから、世界全体では前年度を下回る見込み。消費量は、中国、米国等で増加が見込まれることから前年度を上回る見込み。世界全体の生産量は消費量を下回り、期末在庫率は前年度より低下。なお、アルゼンチンは、2018年1月以降、早植えとうもろこしの主産地で高温乾燥型の天候が続いていることから、生産量が前月から300万トン下方修正された。

- ① 生産量: 10億4,173万トン(対前年度比 3.2%減)・・・米国、南アフリカ、ウクライナ、中国、ブラジル等で減少(前月に比べ、アルゼンチン等で下方修正)
- ② 消費量: 10億6,841万トン(対前年度比 0.7%増)・・・中国、米国等で増加
- ③ 期末在庫量: 2億309万トン(対前年度比 11.6%減)・・・中国等で減少(前月に比べ、米国で下方修正)

期末在庫率: 19.0%(対前年度差 2.6ポイント減)

**米(精米)** : 生産量は、米国で作付期にアーカンソー州北東部及びミズーリ州南東部で洪水が発生、カリフォルニア州では土壌水分過剰により収穫面積が減少し、米国全体の生産量が1997/98年度以来最低となること、インド等でも減少が見込まれることから、世界全体では前年度を下回る見込み。消費量は前年度を下回る見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

- ① 生産量: 4億8,433万トン(対前年度比 0.5%減)・・・インド等で減少
- ② 消費量: 4億8,078万トン(対前年度比 0.3%減)
- ③ 期末在庫量: 1億4,079万トン(対前年度比 2.6%増)・・・中国等で増加、インド等で減少  
期末在庫率: 29.3%(対前年度差 0.8ポイント増)

## 2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

生産量は、米国で史上最高の収穫面積となること等から増加するものの、アルゼンチン、ブラジル等で減少が見込まれることから、世界全体では前年度を下回る見込み。消費量は、中国等で増加が見込まれることから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回るものの、期末在庫率は前年度より低下。

なお、ブラジルは、生育期を通じて好天に恵まれたことから、生産量が前月から200万トン上方修正、アルゼンチンは、季節はずれの高温乾燥型の天候により、生産量が前月から200万トン下方修正された。

- ① 生産量: 3億4,692万トン(対前年度比 1.3%減)・・・米国等で増加、アルゼンチン、ブラジル等で減少(前月に比べ、ブラジル等で上方修正、アルゼンチン等で下方修正)
- ② 消費量: 3億4,320万トン(対前年度比 4.0%増)・・・中国等で増加
- ③ 期末在庫量: 9,814万トン(対前年度比 2.1%増)・・・米国等で増加、ブラジル等で減少  
期末在庫率: 28.6%(対前年度差 0.5ポイント減)

担当: 大臣官房政策課食料安全保障室 篠原、浅田 (内線3805)

# 世界の穀物・大豆の需給動向

2018. 2

(米国農務省2018年2月8日発表)

## 【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2015/16	2016/17 (見込み)	(予想)	2017/18		(参 考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
<b>全体</b>							
生産量		2,468.53	2,603.25	2,564.51	▲ 1.5%	▲ 1.4	2,267.7
消費量		2,434.75	2,577.42	2,580.11	0.1%	4.4	2,276.5
期末在庫量		626.69	652.52	636.93	▲ 2.4%	▲ 5.9	461.2
期末在庫率		25.7%	25.3%	24.7%	▲ 0.6	▲ 0.3	20.3%
<b>小麦</b>							
生産量		735.31	750.44	758.25	1.0%	1.2	658.8
消費量		711.68	739.37	744.79	0.7%	3.1	680.0
期末在庫量		241.58	252.64	266.10	5.3%	▲ 1.9	177.9
期末在庫率		33.9%	34.2%	35.7%	1.6	▲ 0.4	26.2%
<b>粗粒穀物</b>							
生産量		1,260.26	1,366.03	1,321.94	▲ 3.2%	▲ 2.3	1,135.1
消費量		1,254.95	1,355.87	1,354.54	▲ 0.1%	2.3	1,132.4
期末在庫量		252.48	262.65	230.04	▲ 12.4%	▲ 3.7	164.5
期末在庫率		20.1%	19.4%	17.0%	▲ 2.4	▲ 0.3	14.5%
<b>とうもろこし</b>							
生産量		973.45	1,075.97	1,041.73	▲ 3.2%	▲ 2.8	874.3
消費量		968.23	1,061.17	1,068.41	0.7%	1.7	869.5
期末在庫量		214.96	229.76	203.09	▲ 11.6%	▲ 3.5	132.9
期末在庫率		22.2%	21.7%	19.0%	▲ 2.6	▲ 0.4	15.3%
<b>米(精米)</b>							
生産量		472.96	486.78	484.33	▲ 0.5%	▲ 0.4	473.8
消費量		468.11	482.17	480.78	▲ 0.3%	▲ 1.0	464.1
期末在庫量		132.63	137.24	140.79	2.6%	▲ 0.3	118.8
期末在庫率		28.3%	28.5%	29.3%	0.8	▲ 0.0	25.6%

## 【大豆】

項目	年度	2015/16	2016/17 (見込み)	(予想)	2017/18		(参 考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		313.77	351.32	346.92	▲ 1.3%	▲ 1.7	268.5
消費量		314.35	330.14	343.20	4.0%	▲ 1.3	263.1
期末在庫量		77.92	96.14	98.14	2.1%	▲ 0.4	55.9
期末在庫率		24.8%	29.1%	28.6%	▲ 0.5	▲ 0.0	21.3%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(February 8, 2018)

「Grain: World Markets and Trade」、 「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、米(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / 消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、米(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、2012年の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Grain: World Markets and Trade」、 「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向  
(米国農務省2018年2月8日発表)

2018. 2

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2015/16	2016/17 (見込み)	2017/18 (予想)	2017/18		(参 考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
<b>全体</b>							
生産量		429.26	472.56	437.29	▲ 7.5%	0.0	353.0
消費量		348.12	363.41	363.24	▲ 0.0%	0.1	317.1
輸出货量		81.75	96.92	87.85	▲ 9.4%	2.5	51.6
期末在庫量		76.14	95.76	90.54	▲ 5.5%	▲ 2.6	44.2
期末在庫率		17.7%	20.8%	20.1%	▲ 0.7	▲ 0.7	12.0%
<b>小麦</b>							
生産量		56.12	62.83	47.37	▲ 24.6%	0.0	61.3
消費量		31.94	31.75	30.40	▲ 4.3%	0.1	37.8
輸出货量		21.17	28.72	25.86	▲ 10.0%	▲ 0.7	27.5
期末在庫量		26.55	32.13	27.47	▲ 14.5%	0.6	19.5
期末在庫率		50.0%	53.1%	48.8%	▲ 4.3	1.4	29.9%
<b>粗粒穀物</b>							
生産量		367.01	402.61	384.26	▲ 4.6%	0.0	285.3
消費量		312.60	327.48	329.03	0.5%	0.0	275.5
輸出货量		57.18	64.50	58.82	▲ 8.8%	3.2	20.7
期末在庫量		48.11	62.17	62.15	▲ 0.0%	▲ 3.2	23.5
期末在庫率		13.0%	15.9%	16.0%	0.2	▲ 1.0	7.9%
<b>とうもろこし</b>							
生産量		345.51	384.78	370.96	▲ 3.6%	0.0	273.2
消費量		298.79	313.86	318.66	1.5%	0.0	263.0
輸出货量		48.29	58.24	52.07	▲ 10.6%	3.2	18.5
期末在庫量		44.12	58.25	59.75	2.6%	▲ 3.2	20.9
期末在庫率		12.7%	15.7%	16.1%	0.5	▲ 1.0	7.4%
<b>米(精米)</b>							
生産量		6.13	7.12	5.66	▲ 20.5%	0.0	6.3
消費量		3.58	4.17	3.81	▲ 8.6%	0.0	3.8
輸出货量		3.40	3.70	3.18	▲ 14.1%	0.0	3.4
期末在庫量		1.48	1.46	0.93	▲ 36.3%	0.0	1.2
期末在庫率		21.2%	18.6%	13.3%	▲ 5.2	0.0	16.1%

【大豆】

項目	年度	2015/16	2016/17 (見込み)	2017/18 (予想)	2017/18		(参 考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		106.86	116.92	119.52	2.2%	0.0	82.8
消費量		54.47	55.51	56.83	2.4%	0.0	48.6
輸出货量		52.86	59.16	57.15	▲ 3.4%	▲ 1.6	36.1
期末在庫量		5.35	8.21	14.42	75.6%	1.6	3.8
期末在庫率		5.0%	7.2%	12.7%	5.5	1.6	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(February 8, 2018)

「Grain: World Markets and Trade」、「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、米(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / (消費量 + 輸出货量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、米(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。  
なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、2012年の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Grain: World Markets and Trade」、「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS&D」については、公表された最新のデータを使用している。

(参考1)

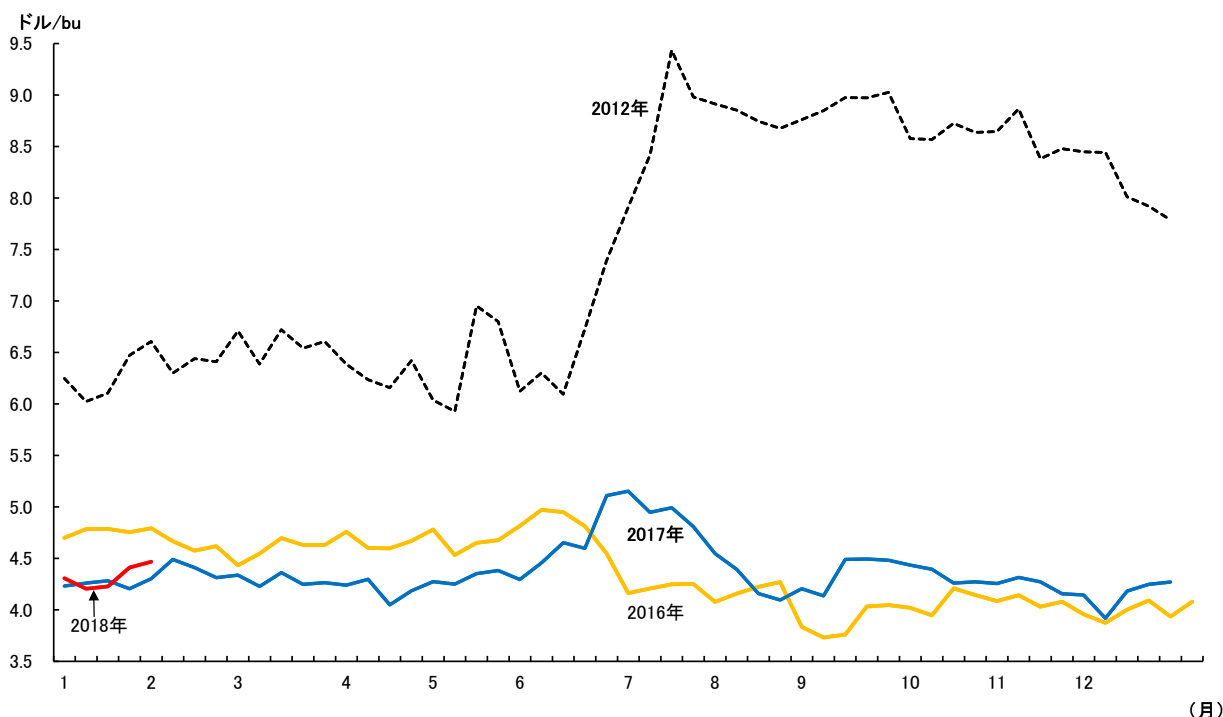
## 世界の穀物の価格動向 (2018年)

- 小麦: 4.47ドル/bu (前年同時期の価格: 4.30ドル/bu)  
(価格は、シカゴ商品取引所における2月第1週末の期近価格(セツルメント)。)

2016年2月以降、米国大平原での降雪による凍害懸念の後退、米国の農業観測会議における需給緩和見通し等から4ドル/bu台前半まで値を下げた。3月以降は米国大平原での乾燥・気温低下、5月以降は米国の中西部及び大平原南部、欧州・黒海沿岸地域での多雨型の天候による作柄悪化懸念から5ドル/bu前後まで値を上げたものの、6月以降は米国で冬小麦の順調な収穫進展、8月以降は米国で春小麦の順調な収穫進展及びカナダの豊作見込み等から12月には4ドル/bu前後まで値を下げた。

2017年1月以降、米国や黒海沿岸地域の冬小麦の凍害懸念や米国の低水準な冬小麦作付面積推定も、収穫期の豪州、アルゼンチンの豊作見込み等から4ドル/bu台前半で推移した。6月以降、米国大平原北部の高温・乾燥等から5ドル/bu台前半まで値を上げたものの、7月以降、米国での順調な収穫進展、ロシアの豊作見込み等から4ドル/bu前後まで値を下げた。9月中旬から10月初旬は、生育中の豪州、アルゼンチンでの天候懸念から4ドル/bu半ばで推移したものの、その後は世界的に供給が潤沢であること等から3ドル台後半まで値を下げた。12月下旬、米国大平原の冬小麦産地への寒波到来による凍害懸念から4ドル/bu台前半まで値を上げた。

2018年1月以降、米国大平原南部の冬小麦産地で乾燥による作柄悪化懸念も、世界的に潤沢な供給から、現在は4ドル/bu台半ばで推移。



注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。  
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

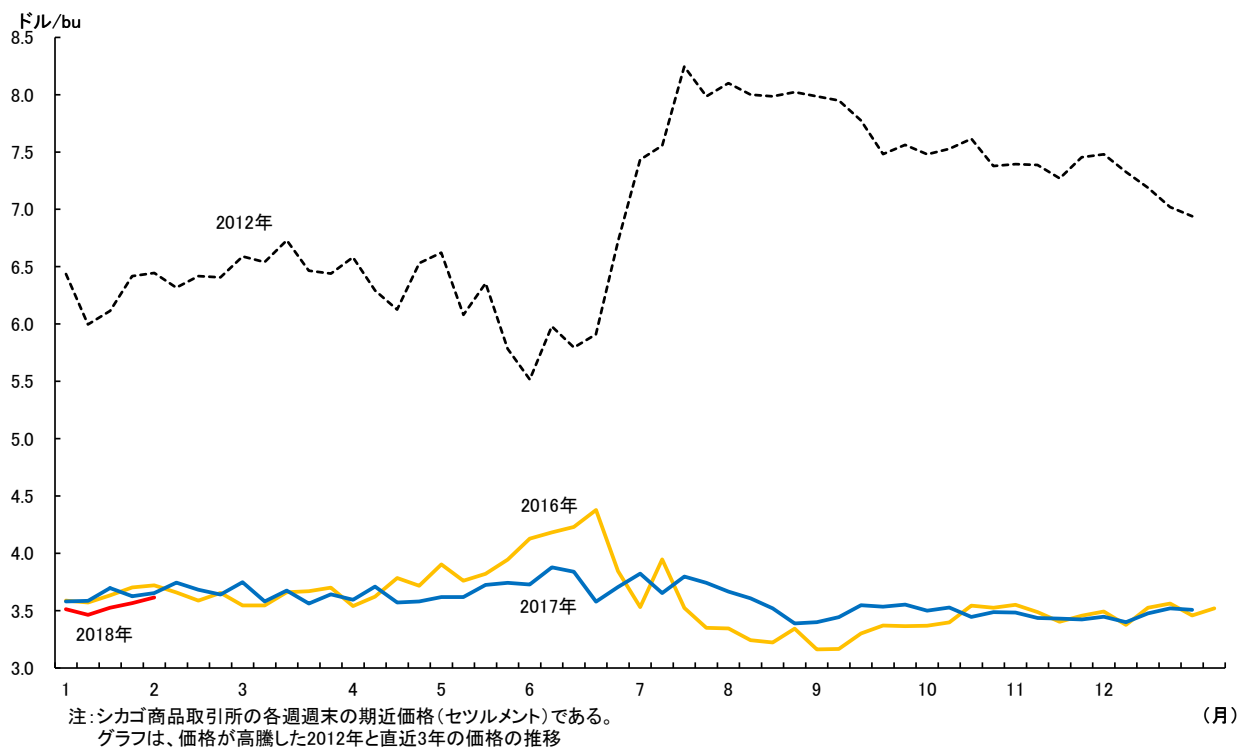
(月)

- とうもろこし： 3.62 ドル/bu （前年同時期の価格：3.65 ドル/bu）  
（価格は、シカゴ商品取引所における2月第1週末の期近価格（セツルメント）。）

2016年4月以降、ブラジル中西部での乾燥型の天候やアルゼンチンの多雨型の天候による収穫遅延及び作柄悪化懸念及び米国中西部での高温・乾燥予報による作柄悪化懸念から4ドル/bu台前半まで値を上げたものの、6月中旬以降、米国中西部で降雨による豊作見込みから3ドル/bu台前半まで値を下げた。

2017年1月以降、米国で堅調なエタノール需要も、南米の豊作見通し等から、3ドル/bu半ばで安定的に推移。6月に入り、米国中西部での高温・乾燥型の天候による作柄悪化懸念から3ドル/bu台後半まで値を上げたものの、7月末以降、天候改善により値を下げ、3ドル/bu台半ばで推移した。

2018年1月以降、アルゼンチンで乾燥による作柄悪化懸念も、世界的に潤沢な供給から、現在は3ドル/bu台半ばで推移。

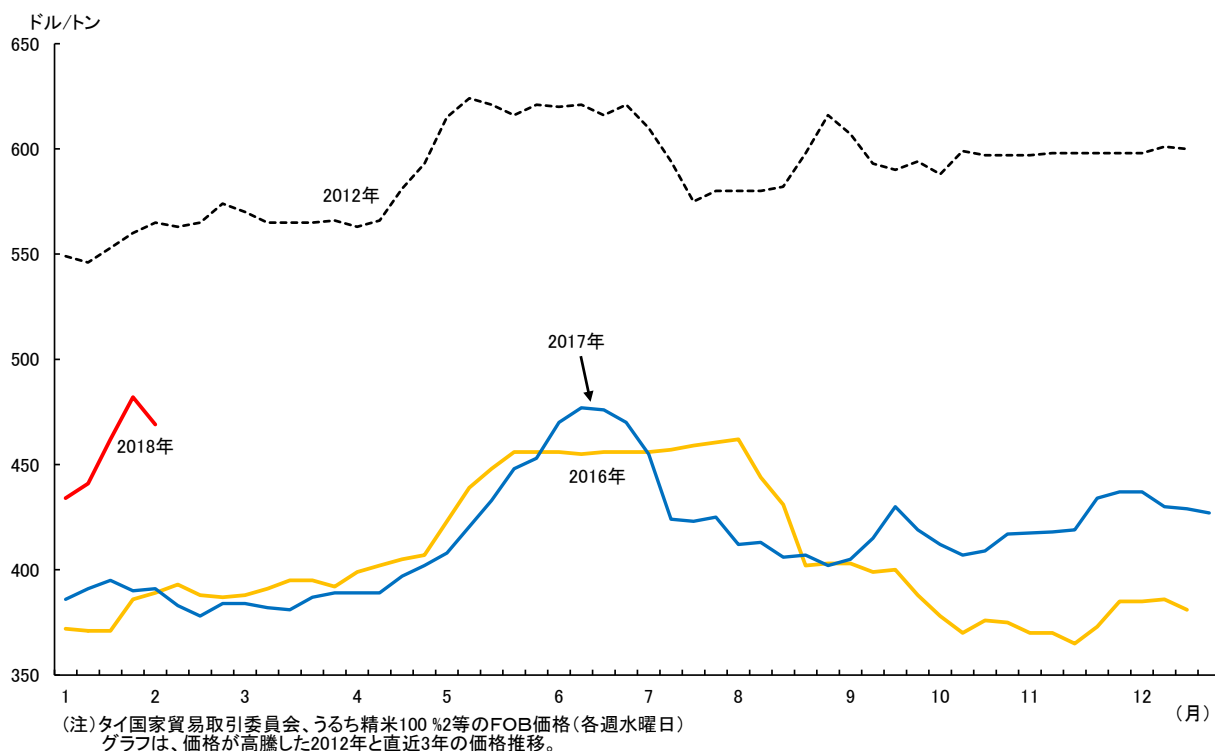


- 米： 469 ドル/トン （前年同時期の価格：391 ドル/トン）  
（価格は、タイ国家貿易取引委員会における2月第1週の水曜のFOB価格。）

2016年1月半ば以降、タイでの水不足による乾季米の不作から460ドル/トン台まで値を上げたものの、8月以降、雨季到来後の十分な降雨による雨季米の順調な生育、9月以降は旧穀の在庫処分の推進、10月以降は新穀の出回りの開始等により、11月半ばには360ドル/トン台まで値を下げた。その後、タイ政府による政府備蓄米の放出停止や農家への粳米保管支援等から380ドル/トン台まで値を戻した。

2017年5月以降、アジア・中東諸国等の輸入需要から470ドル/トン台まで一時値を上げたものの、7月以降の輸入需要の緩和により410ドル/トン台まで値を下げた。11月半ば以降、タイで洪水による雨季米の収穫遅延から、430ドル/トン前後まで値を上げた。

2018年1月以降、インドネシア、フィリピン等による輸入需要から値を上げ、現在は460ドル/トン台で推移。

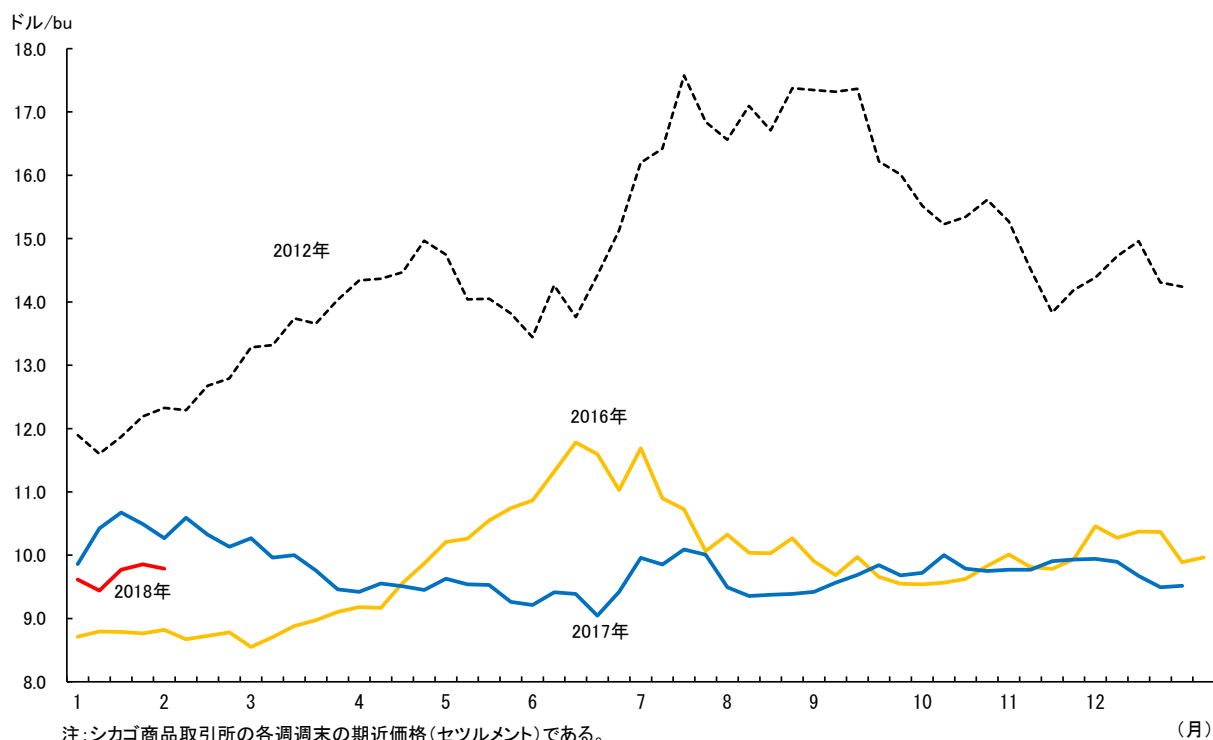


- 大豆：9.79ドル/bu（前年同時期の価格：10.27ドル/bu）  
（価格は、シカゴ商品取引所における2月第1週末の期近価格（セツルメント）。）

2016年3月初旬以降は堅調な輸出需要、4月以降はアルゼンチンの多雨型の天候による収穫遅延及び作柄悪化懸念及び米国中西部での高温・乾燥予報による作柄悪化懸念から11ドル/bu台後半まで値を上げたものの、7月上旬以降、米国中西部で降雨による豊作見込みから9ドル/bu台後半まで値を下げた。11月以降、米国のバイオディーゼル使用義務量の見直し等から10ドル台半ばまで値を上げたものの、南米での乾燥懸念の後退等から9ドル/bu台後半まで値を戻した。

2017年1月上旬、アルゼンチンの降雨過多による作柄悪化懸念により10ドル/トン台半ばまで値を上げたものの、1月下旬以降はアルゼンチンの天候回復、ブラジルの豊作見通しにより9ドル/bu前後まで値を下げた。6月末以降、米国中西部の高温・乾燥型の天候による作柄悪化懸念等から10ドル/bu前後まで値を上げた。8月には、米国中西部の天候改善により一時9ドル/bu台前半まで値を下げ、その後は9ドル/bu台後半で推移。12月下旬以降、ブラジルで生育に適した天候に恵まれ、9ドル/bu台半ばまで値を下げた。

2018年1月以降、ブラジルで順調な生育も、アルゼンチンの乾燥による作柄悪化懸念から、現在は9ドル/bu台後半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。  
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

(月)

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年 1月	2月
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	114.73	113.06
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2018年 1月
113.01	110.06	112.21	110.91	112.44	109.91	110.68	112.96	112.92	112.97	110.77
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート  
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>  
年度別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年 1月	2月
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	36.20	36.00
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2018年 1月
38.00	37.25	35.80	35.25	37.00	37.80	39.75	42.40	42.00	44.25	45.20
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上  
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC Grain  
Market Indicators」  
月別は、週別価格の平均値。

3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年 1月	2月
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	43.32	52.61	53.46
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2018年 1月
49.67	51.12	48.54	45.20	46.68	48.06	49.88	51.59	56.66	57.95	63.38
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」平成30年1月, 125頁  
但し、2018年1月は、米国エネルギー情報局(U.S. Energy Information Administration)「Weekly Petroleum Status  
Report」の1月26日までの週別価格の平均値。